

けいちゃん野菜畑

山辺小学校四年 田部井 歩 那

「ジャガイモ、ほりにおいで。」

毎年六月になると、そう声をかけてくれる人がいる。近くの坂の上に住む、けいちゃんだ。けいちゃんは、わたしのおじいちゃんよりも年が上で、ジャガイモだけでなく、トウモロコシやトマト、ナス、きゅうりなど、たくさん野菜を山の畑で育てている。けいちゃんの家は、けいちゃんとおくさん、二人で住んでいて、たくさんのお花がともきれいにさいている。外の水そうには、大きな金魚が楽しそうに泳いでいる。けいちゃんの家はまるで、たくさんのお宝でいっぱい「宝島」みたい。わくわくしながらわたしと弟が行くと、「いらっしやい。」

と笑顔で出迎えてくれる。まるでおじいちゃん、おばあちゃんのように、笑顔でやさしく話しかけてくれる。そんな、けいちゃんたちがわたしは大好きだ。

ジャガイモ畑は、家から少し坂を下りたところにある。急なしゃ面なので、

「落ちないように、気をつけて。ここで落ちる人が毎年いるんだよ。」とけいちゃんは声をかけてくれる。笑顔で話すから、それはじょうだんらしいけど、びつくりしてこわくなり、気をつけなきゃと思う。

けいちゃんはいつも、わたしと弟がほる分のじゃがいもを畑にの

こしておいてくれる。畑の土は、とてもサラサラ。さわっていても、全然手に付かず、気持ちがいい。たくさんほって、わたしが弟といっしょによるこんでいると、その様子を写真にとり、別の日にカードにして持ってきてくれた。

わたしは小さい時、野菜がきらいで、保育園の給食を残していた。ちようどそのころ、けいちゃんが家で育てたブロッコリーを持ってきてくれた。おばあちゃんがゆでたブロッコリーを見て、最初はあんまり食べたくなかったけれど、とてもきれいな緑色だったので、ドキドキしながら食べてみた。あまくて、やわらかくておいしかった。野菜にまほうがかかっているのかな、と思った。それから、野菜を見て、どんな味がするのかな、食べてみようかな、と思うようになり、食べられるようになった。食べられる物がふえて、とてもうれしかった。それをけいちゃんに伝えると、けいちゃんは野菜がどうやって育つか教えてくれて、野菜のしゅうかくの時期にさそってくれるようになった。

そんなけいちゃんに、わたしは言葉では言いつくせないほど、感しゃの気持ちでいっぱいだ。いつも笑顔でやさしくて、おもしろい話をしてくれるけいちゃん。けいちゃんはわたしにとって親せきのおじさんみたい。いっしょにいと、わたしまで元気が出てくる。近所に、こんなすてきな人たちがいて、ふだんなかなか見ることができない野菜の様子を教えてもらったり、とれたてのおいしい野菜が食べられたりして、わたしは幸せだと思う。